

会 議 録

会議の名称	第5回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会
開 催 日	令和7年12月17日（水）
開 催 時 間	午後6時30分 から 午後8時20分 まで
開 催 場 所	市役所大山庁舎 1階 大会議室
出席者（出席委員） の氏名・出席者数	明野 真久、神田 小百合、細野 勇人、中村 則裕、小林 大輔 辻 文明、大山 美智子、水野 香奈、矢部 れい美、藤井 亮輔 加藤 政典、濱本 一、安原 輝彦、松崎 慶喜 出席者：14名
欠席者（欠席委員） の氏名・欠席者数	中口 智弘 欠席者：1名
説明員の職・氏名	魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一
事務局職員の職・氏 名	教育長 横松 伸二 教育部長兼教育指導課長 長谷川 亘 教育総務課長 高澤 憲司 教育指導課指導主事 佐井 純一郎 魅力ある学校づくり推進室長 齊藤 健 魅力ある学校づくり推進室主査 相子 純一
その他会議出席者の 職・氏名	教育総務課主幹 神田 晶子 ファシリティマネジメント推進課課長補佐 濱田 貴央 ファシリティマネジメント推進課主査 空谷 大地 株式会社ファインコラボレート研究所 土肥 千絵
傍 聴 者 数	16人
会 議 次 第	別添のとおり
配布資料等	資料1 不登校児童・生徒の支援に対する今後の方向性修正案 資料2 将来ビジョン骨子案 資料3 図書を生かした学校づくり 資料4 新たな学習について 資料5 地域連携について 資料6 環境の充実について

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	1 開 会
教育長	2 あいさつ
事務局	3 議 題 <p>それでは議題に入ります。ここからの進行につきましては、濱本会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
濱本会長	議題に入る前に一言ごあいさつを申し上げます。
濱本会長	濱本会長あいさつ
濱本会長	<p>それでは、暫時の間、議長の職を務めさせていただきます。委員の皆様には、限られた時間の中で会議を効果的に進めるため、有意義な議論へのご協力をお願いいたします。</p> <p>また、本日ご出席いただいている株式会社ファインコラボレート研究所の方からも、必要に応じてご意見を伺うことがありますので、あらかじめご承知おきください。</p> <p>なお、傍聴の方の入室を許可しておりますので、ご了承ください。</p>
濱本会長	まず、本日の議題に入る前に、前回の再検討になっていた「不登校児童・生徒について」の今後の方向性について、事務局から説明をお願いします。
事務局	「不登校児童・生徒について」の今後の方向性について説明
濱本会長	事務局からの説明が終わりました。何かご意見、ご質問等はございますか。
A委員	<p>前回の会議で私の方からこの件について発言させていただいた部分がありましたが、とにかく白岡の子どもたちが学校に来られる、または子どもたち同</p>

	士が接する機会を作ることが大事だと思うので、修正案でよろしいかと思います。
H委員	資料の黒ポツ4つ目のアンダーラインのところですが、教室に入れない、いられない生徒の居場所として、さわやか相談室で自習をするとありますが、授業の時間でもさわやか相談室を急ぎの相談で利用することがないわけではないので、このように休み時間中と書いてしまうと、そうではない場合もたくさんあります。この表現をもう少し変えたほうが良いと思いました。
濱本会長	今のご意見に対して、事務局はどうでしょうか。
事務局	ご意見を踏まえまして、修正したいと思います。
濱本会長	皆様、ありがとうございました。それでは基本的な方向性は、これでよろしいですか。
委員一同	異議なし
濱本会長	続きまして、議題1「将来ビジョン骨子（案）について」を議題といたします。現在、論点ごとの議論を実施しているところですが、将来ビジョンの骨子案の内容を先に確認しておくことで、本日実施する論点ごとの議論がより充実したものになると思ひまして、こちらを最初の議題としました。それを踏まえまして、事務局の説明をお聞きいただければと思います。
	それでは、事務局から説明をお願いします。
事務局	(1) 将来ビジョン骨子（案）について説明
濱本会長	事務局からの説明が終わりました。事務局の説明を受けての不明点や骨子の構成などに関する内容に絞って質問をお願いできればと思います。
	それでは、質疑またはご意見はございますか。

D委員	将来ビジョンの期間は、いつからいつまでですか。
事務局	期間につきましては、第1回審議会の際に、どれくらい見据えているのかとご質問をいただいているところでございます。おおむね20年から30年の期間を見据えたものでございます。当然、その間には、直ぐに取り組まなければいけない問題、中期的に取り組まなければいけない問題、長期的に取り組まなければいけない問題がございますので、そのことも考慮した内容で考えています。
D委員	第3章のところで、これからの学校教育について、国の動向があって、その下が白岡市の教育になっていますが、埼玉県教育は入れなくて良いのでしょうか。
事務局	入れたほうが良いのか、入れないほうが良いのか、検討させていただきます。
D委員	第5章ですが、推進に向けてと書いてありますが、これは計画の推進ですか、それともビジョンの推進でしょうか。
事務局	計画の推進です。
濱本会長	<p>ビジョンの期間ですが、前回の審議会でも、例えば5年とか10年で見直すことも大事だご意見をいただいておりますので、そういうことも踏まえたほうがよいと思いました。</p> <p>また、埼玉県教育については、埼玉県全体のことであって、その辺もまた議論することが必要だと思います。</p>
M委員	「図書を生かした学校づくり」について、私も基本的には賛成です。こういうデジタルな時代こそ、紙の本に触れるということは、洗練された情報、他者の批判を経た情報という点で、一日の長があると私は思っています。良いアイ

<p>濱本会長</p>	<p>デアを持ってこられたなと思っております。</p> <p>しかし、現実問題としてまだ詰めていかなければいけないところはあると思います。図書というからには蔵書を学校ごとに揃えることに意味があるからです。現状の学校数で各校の図書室を充実させていくことができるのかということがまず一つあると思います。そして、「図書を生かす学校づくり」について、私が経営する学校も実は取り組んでいます。音頭の旗を振っただけでは続きません。図書館には司書を置かなければなりませんし、その司書が学校長と一体となって、「本校はこういうふうに関書を使った教育を進めていくんだ」との体制があつてはじめて授業などに組み込まれていきます。リーダーシップをとれる司書の配置が大事だと思います。</p> <p>また、司書だけ思いが強くても、担任の先生の協力体制が必要です。現在、カリキュラム・オーバーロードなどと言われている時代ですので、現場の先生が、授業の中で関書を活用しようとする雰囲気ではありません。ですから、先ほど埼玉の教育、国の教育がありましたが、今後の学習指導要領で、コマ配置がある程度柔軟化されるという話を私も聞いております。現場の負担にならない関書を活用した授業という考え方も今後必要になっていくでしょう。デリケートな問題はまだ残されているだろうと思っています。</p> <p>最後に、白岡市の生涯学習施設は立派です。白岡市の自治体規模であれだけ立派な文化施設を持ってらっしゃる市町村はそうないと思います。そのような大型の拠点を使って関書を使った学びを推進していくのか、それとも先ほど私が言ったように、各校に関書を充実させるのか、結果、どっちつかずになってしまう可能性もあるので、そういった論点整理が今後必要になっていくだろうと思っています。</p> <p>ありがとうございます。貴重なご意見をいただきました。やはり学校図書館を充実させる上では、司書の配置を今後どのようにしていくのか考えなくてはいいけませんし、課題の1つであると思います。</p> <p>また、市立図書館を中心化していくのか、または、各学校の蔵書を充実していくのか、両面で充実していくのか、などいろいろなことがあると思います。その辺のことについてもご意見をいただければと思います。</p>
-------------	---

L 委員	<p>先ほどご説明ありましたとおり、確かにこもれびの森という図書館があります。それを使うか、各学校で対応するのか考えると、結局のところ、人を動かすのか、物理的に本を動かすのかという問題に直面すると思います。もし学校の授業の中で本を活用するとなると、必要な本、もしくは本がある程度充実していないと意味がないということになった場合に、その授業のタイミングで児童・生徒を動かすのか、それともその授業に向けて本を動かして持っていくのかみたいなことも含めて考えていくと、まちづくりになってしまうのではないかと思います。本の管理をもっと大型化していくことを考えていたり、交通の便をどうにかしていくところも考えていたりするところだと思います。どちらも考えていくことと思いますが、引き続きやることとして、図書を生かすことは問題ないと思いますが、それを実際にどうやったらうまく回していけるようになるかを深掘りしていく必要があると思います。</p>
B 委員	<p>私もこの図書に関して、白岡の特色として出していくことは基本的には賛成です。</p> <p>私はあまり図書のことは詳しくないですが、図書に明るい現場の方にお話を聞きました。聞いた話によると、市立図書館と学校の図書館は蔵書のデータを共有できる仕組みになっているそうです。そういった取組をしている市町村は近隣にはなかなかないとのこと。これに関してはとても素晴らしいとのことでしたが、現場ベースでは、その仕組みをうまく活用できていない問題があると聞きました。先ほどお話がありましたが、学校の蔵書を充実させることを考えると、学校に図書の予算があると思いますが、現在は各学校の裁量に全て任されているということですので、図書に詳しい方だったり、司書の資格を持っている方といった方が学校にいないと、学校によって差が出てしまうので、せっかくいただいた予算も消化するような形になってもったいないのではないかとのお話もありました。白岡市全体を見渡せるような方が、それぞれの学校に図書を振り分けて活用していくことができないか、とのお話も聞きました。</p> <p>また、将来ビジョンについて素晴らしいと思いますが、今現在の課題も含め</p>

<p>E委員</p>	<p>て改善をしていっていただけたらと思います。</p> <p>本校も図書を生かした学校については、とてもありがたいと思いながら聞かせていただきました。</p> <p>今年度、生涯学習課の職員の方に学校に来ていただいて、子ども用百科事典の使い方講座を行っていただきました。本校は、子ども用百科事典を持っていませんので、学校に出張して、解説してくださる取組はありがたかったと思っています。</p> <p>あと、学校の子どもたちが図書を使うときは、一般の方が利用する図書館と違って、いろいろなつぶやきや意見交換がある中で使うことも想像できるので、そういった図書を使える部屋みたいなスペースがあることは、すごく大事だと思いながら聞かせていただきました。</p>
<p>H委員</p>	<p>図書を生かした学校づくりについて、私も賛成です。例えば埼玉県内だと、三郷市の図書を生かした教育が有名だと思っています。学校を見に行ったときに、廊下の端が椅子のようになっていて自由に子どもたちがそこに座って本を読むような、そんな光景が当たり前にありました。本に触れる機会が非常によくなくなるような、そういう仕組みづくりがされている学校だと思いました。ここから先は全部図書館ではないかと思うような校舎の配置といいますか、本の置き方といいますか、工夫がみられて、すごいと思いました。先日視察に行った春日学園もそうでした。廊下の両側に本があるスペースがあったので、子どもたちが本当に自由に本と触れ合っていたとの感想を持ちました。</p> <p>白岡市では、学校の図書室では本が足りないのに、こんな本を授業で使いたいと伝えると、こもれびの森の図書館で本を揃えてくださって、貸していただけることもあるので、そんな方法でも活用させていただいたり、また、学校には、司書教諭の資格を持っている教員がいて、たくさんいるわけではないので配置に尽力していただいているところではありますが、そういう教員が中心になって、例えば、図書室の活用率が低いときには、1クラスずつ図書室で朝の会をやって、司書教諭の先生から図書室の本の並び方や本の紹介をしていただく時間を順番にやったこともあります。図書支援員の方にも月に何度か来てい</p>

	<p>ただいているので、特別支援学級の生徒に読み聞かせをしていただいたことも最近ありました。</p> <p>いろいろな研究でも明確になっていますけれども、本・読書・技術と学力の相関関係というのは、明確になっているところなので、ぜひこんな学校が作れたら良いなと思っております。</p>
K委員	<p>私も図書を生かした学校づくりはよい案だと思いました。</p> <p>今、デジタル化が進む中で、電子書籍については、今後どのように使われていくのかとこの資料をいただいたときに感じました。</p> <p>今の子どもたちにはiPadが1人1台ずつ配られている中で、もしかしたらiPadで本を読みたいという子どももいるかもしれません。そういった整備も今後されていくのかなということを感じました。</p>
濱本会長	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>電子書籍などへの対応について、事務局は何か考えはありますか。</p>
事務局	<p>電子書籍も含めて図書であると我々は考えています。今お話がありましたように、スペース作りや、学校図書館の充実など、課題はたくさんあると思いますが、将来に向けて、図書を生かした学校を実現するために、一つひとつ問題点をクリアしていこうと考えております。</p> <p>なかなかすぐには解決できないと思いますが、少し時間をいただきながら一歩一歩進んでいける計画を立てていきたいと考えております。</p>
A委員	<p>1つ気になる点があるので教えてください。将来ビジョンの期間が20年から30年とのお話がありましたが、4章の内容とビジョンの期間の関係性についてはしっかりと考える必要があると思います。例えば、白岡市の部活動は、早めに地域移行をはじめました。今後は平日も地域へ移行していくという考えもあると思います。取組内容によって20年もかけないで行うもの、例えばプールの対応は1、2年でできるものではないかと思いますが、ざっくり20年という言い方をすると、すべての内容を20年かけてやるというふうに捉え</p>

事務局	<p>られてしまう可能性も考えられるので、できれば、この項目はだいたい５年ぐらいでここまでやりたいなど、タイムスケジュールを付けたほうが良いと思うのですがいかがでしょうか。</p> <p>我々としては、先ほどもお話をさせていただいたように、短期、中期、長期というような形でやれるものがあると思っています。特にハード施設は、更新をしなくてはいけない、あるいは学校を建て替えなければならないなど、そういった場合は当然５年、１０年でできる話ではありません。</p> <p>今、お話をさせていただいたものの中には、２年間、３年間、５年間など短期間でできるものもあると思います。ただ、中には１０年かかるものもあると思います。細かく取り組んでいく内容につきましては、お見せできるかどうかを含め検討したいと思います。</p>
濱本会長	<p>今までの審議会の中で、将来ビジョンを５年くらい経過したら見直したほうがよいのではといった意見が出ております。</p> <p>将来ビジョンの内容が「スケジュール通りに進んでいるのか」、「今こういう状況である」、「今度はこういう形になります」など、そのようなことを常に把握しながら進めることがとても大事だと思います。その辺りも踏まえて、事務局は作成をよろしくお願いします。</p> <p>それでは、将来ビジョンの骨子につきましては、事務局が示した形で進めていくことでよろしいでしょうか。</p>
委員一同	<p>異議なし</p>
濱本会長	<p>ありがとうございます。それでは、今後引き続きいろいろと具体的な内容を詰めていきたいと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>続きまして、議題２「新たな学習について」を議題といたします。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(2) 新たな学習について説明</p>

<p>濱本会長</p>	<p>事務局からの説明が終わりました。</p> <p>大事なところは 12 ページです。このような中で、いろいろ学校の実態もありますが、「小学校から中学校までの 9 年間を一貫した成長期間として捉え、「学び」と「育ち」の連続性を確保し、小中連携のもと、途切れない成長の実現を目指す。」という方向性でいきたいということです。こちらについてご意見、ご質問等ありますか。</p>
<p>G 委員</p>	<p>先ほどの図書の問題とも関係してきますが、基本的に、こちらについては大賛成です。もうすでに長短ありますが、意識しながらやっているというのは、おそらくどの学校も地域も一緒だと思います。12 ページに書かれていることは、大変よいと思います。</p> <p>次に、小中連携についてですが。義務教育学校と小中連携は違うので、そちらを市としてどうしていくのかが大きな課題だと自分自身も常に意識しています。義務教育学校に関係したこともあり、いろいろ難しさ、良さもあると思います。</p> <p>小中連携は、どの小学校、中学校も意識してやっていると思っていて、私も前の南小、現在の西小でもそうですが、これは柱の一つとしています。</p> <p>南小も西小も 1 小 1 中です。この連携なくして地域との関係はうまくいきません。南小に着任したときも意図的に取り組みました。</p> <p>コミュニティ・スクールについては、私としては地域で小中一体となってやりたいと訴えてきましたが、どこかで方向転換があって学校ごとでよいとなっていました。そちらに反対しているわけではないですが、やはりコミュニティ・スクールの特色として、地域が学校を作っていくことは絶対続けなければいけないと、A 委員と話をしながら小中一緒にやりましたし、西小も、当時は大山小学校もありましたが、一緒にやらなければ意味がないと、B 委員とも話をしました。市内をみると菁莪小中はもうすでに行っています。篠津がどうなっていくかということ、本来は小中一緒にやるという話でスタートしていましたが、どこかの時点で一緒になりませんでした。個々の良さはありますが、そこが本当にどうやっていくのかは大きな課題だと個人的には思っています。篠</p>

	<p>津地区のことはわからないので何とも言えないですが、今後どうなっていくのか、小中連携はどちらもしているので、大きなことだと思います。</p> <p>もう一つは、教育委員の方や、県へのお願いになりますが、人事交流は絶対やらなければいけないと思っています。連携しようと思っても、窓口も含めてなかなか難しい状況です。</p> <p>以前、生徒指導について、中学校における県の「Jプラン」という制度に関して、中学校の校長と話をしたことがあります。その際、この制度を活用して、中学校の教員に小学校へ来てもらい、生徒指導にあたってもらうことができないか、といった話題が出ました。制度をうまく活用することで、さまざまなアプローチの仕方が考えられるのではないかと思います。</p>
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>子どもたちは地域の子どもたちです。G委員の話のように、地域の子どもたちは地域の宝です。地域や学校と一体となりながら、小中一貫、連携をしていくことは大切な意見だと思います。それも含めてこの方向性の中に入れていただければと思います。</p>
I 委員	<p>保護者の立場から、資料の他の自治体の取組をみると、地域によって児童数や子どもの数、規模というのもいろいろあると思うので、どれが当てはまるのか、私ももう少し勉強してみたいなというところです。先日の視察に行ったときに一番感じたことは、中学生、9年生が子どもたちの面倒をみる、しっかりと9年間で育て、自分たちの学校の紹介をしっかりとされていたのが印象深かったです。縦割り9年間で育ていく良さをとても感じました。それを白岡にどう落とし込むかというのは、私も何とも答えはないです。視察に行ったとき、建物やそういった環境の良さは、影響があると思います。それだけでなく、本質ではないですが、仕組みを少しずつ取り入れて全部はできないと思いますが、行っていくのが大事だと感じました。</p>
濱本会長	<p>貴重な意見をいただきました。各学校、地域の実態が違いますので、実情に合わせる必要があると思います。この前、視察に行きました義務教育学校で、</p>

F 委員	<p>その良さを体験できましたが、その良さを発揮できるには、どの学校に行ってもぶれない白岡市の教育がなくてはいけないと思います</p> <p>2 点あります。</p> <p>1 点目は、先ほどの図書を生かした学校づくりのところで気をつけなければいけないと思っていることは、読書をさせることが目的になってはいけないということです。やはり学校づくりで言えば、学習指導要領は外せません。今年の 9 月 25 日に中教審から論点整理が出ています。これはホームページで誰でも見られます。この論点整理は次期学習指導要領についてのことが書かれています。2030 年度から約 10 年間、この次期学習指導要領が反映されるわけですが、今 2025 年ですからあと 5 年です。5 年後からスタートということは、15 年間の国の教育の方向性がこの次期学習指導要領の論点整理に示されています。ここは絶対外せないと思います。そこに書かれているのは、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の作り手をみんなで育む」と書かれています。教職員、子ども、保護者、地域住民、地方公共団体の職員、民間の担い手というところが示されておりますので、ここは外せない。ただ読書の量を増やすという問題でなくて、やはりここが肝になる、というところが 1 点です。</p> <p>もう 1 点は新たな学習で、小中連携の方向性を示されましたが、余計なことを言わない方がよいのかもしれませんが。そもそも、この適正規模・適正配置の審議会条例では、適正規模に関すること、適正配置に関すること、教育委員会が必要と認める事項について審議することになっていて、今話しているのは教育委員会が必要と認める事項について話しているのではないかと思います。この新たな学習の 4 ページから 11 ページまで、ここはかなり乖離していると思っています。今の白岡の学校の配置で考えると、もう小中連携しかできないのではなくて、すでに適正規模・適正配置があって、そこからできないかと考えた方がいろいろなアイデアが出るとしています。今の規模で考えると小中連携しかできないと思って、前回ワクワクしないと言いましたが、その順番が逆と言ってしまったら大変失礼ですが、これだと小中連携、今の学校の配置で考えれば小中連携しかないと思ってしまっている自分がいます。</p>
------	---

濱本会長	<p>貴重なご意見だと思います。現状からすれば小中連携の形しかない、でもこれからどうするかというのもとても大事であって、その部分に対してF委員から違うパターンもある、そういうのも考えていかないといけないとのご提案だと思います。ぜひ必要だと思います。またご意見もいただければと思います。</p> <p>それでは、この方向性でよろしいですか。いろいろご意見があると思いますが、まずはこの方向でいくということではよろしいですか。</p>
委員一同	異議なし
濱本会長	<p>それではこの方向性で、進めていきたいと思います。</p> <p>続きまして、議題3「地域連携について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(3) 地域連携について説明
濱本会長	<p>事務局からの説明が終わりました。</p> <p>地域連携としては2つあります。1つ目がコミュニティ・スクールの充実です。今後の方向性、「家庭、学校、地域、行政がさらに連携し、地域全体が一体となって子どもを育てる「開かれた学校」の実現を目指す。」と示されています。</p> <p>質疑またはご意見はございますか。</p>
B委員	<p>G委員が発言されたところでもう少し発言しようかと思いましたが、こちらに同じ案件がありましたので、今発言させていただきます。</p> <p>コミュニティ・スクールですが、将来的にビジョンとして小中連携という言葉は外せないということです。小中連携・一貫なのか、義務教育学校なのかはまだわからないにしても、その方向に進むということであれば、現状の学校が単独で設置されているところと合同になっているところが混在しているというのは、少しおかしいと思っています。また、大きな市ではなく、中学校区で割れば4つになりますので、その横のつながりも必要かと思っています。いろ</p>

	<p> いろ情報交換したほうがよいのではないかと思います、PTA でも PTA 連合会という ものがあるように、コミュニティ・スクールでも何か連絡会を設置するのであ れば、これとは別の会議になると思いますが、今後の学校の適正規模・適正配 置のご意見も伺えるのではと思っています。 </p> <p> もし義務教育学校という方向に進んでいくのであれば、教員免許を小学校と 中学校と両方の免許を持たれている方が採用されるというお話がありました。 義務教育学校ということは小と中を両方みなければいけないということなり ますので、そちらに関しても、埼玉県は小と中が別々の免許になっていると思 います。その辺りも含めて将来的にそういった方向でなるのであれば、人材の 確保も考えていただきたい、と思いました。 </p> <p> 貴重な意見です。この方向性でいくには、例えばコミュニティ・スクール、 学校運営協議会ですが、中学校区でやった方が良いのではないかと、というのが 一つ。もう一つは中学校区でやったとしても、中学校区で横の連携もしっかり やっていかうとの提案です。 </p> <p> また、教員免許証については、なかなか難しいものがあって、採用するのは 県の教育委員会です。例えば春日学園のある茨城県は、採用のとき小中の免許 を持っている人を優先的に選ぶ傾向もあります。そのため、配置がしやすいの です。そういった状況ですので、両方持っている先生を選んでいくということ で努力していただくしかないのでは、と思います。 </p> <p> この方向性を進める上で、大変重要なことでもあります。 </p>
<p>G 委員</p>	<p> 個人的にはだんだん話が盛り上がってきて面白いと思います。会議の 1 回目 からいろいろ委員の話を聞きながら、なぜ自分がモヤモヤしているのかと思っ たときに、例えば今のコミュニティ・スクールの話も白岡で 6 年経過していま す。白岡の教育振興基本計画の中にも同じことが書かれています。この骨子に ついても同じです。 </p> <p> 私たち校長はそれに基づいて実行している状況です。将来ビジョンも含め て、これらは全部、教育振興計画に書いてあるというのが正直なところです。 </p>

<p>濱本会長</p>	<p>F委員はこの書いてあることを、市としてどのように具体的にいくのというところにモヤモヤ感を持っているのでは、と思いました。</p> <p>面白くなってきた理由は、例えば、図書を生かすことに反対する人はいないと思います。具体的な内容はこの後、こういった意見を受けて市が出してくると思いますが、説明の中で、例えばという言い方でしたが、「地域の方も利用できる図書室」とありました。そうすると市としては、もしかしたら学校の中に図書館分館のような場を作って複合型の施設という考えがあるのかと思いました。そして、義務教育学校の話が出てきて、もしかしたらそういう方向で行くのかなと。私はこれでいくなら西小と白中の義務教育学校でこんなことやってみたいと、いろいろ思ったりしながらワクワクしてきたところです。話を戻しますと、コミュニティ・スクールは先ほど話しましたが、いずれにしても校長はいても3年から4年で、校長が変わるたびに学校が変わるようでは駄目だと思っています。校長が変わってもその学校に根付いた学校ということをB委員、A委員と話をしていて、その利点から学校運営協議会の委員もやっているところです。全く反対をする方はこの中に誰もいないと思います。では、そういう形を作るために、横のつながりを市が音頭をとって行うなど、最初のコミュニティ・スクールのスタートの審議会のときにあったようにいろいろ難しいことがあるかもしれませんが、白岡としては全部中学校区でやっていくような新しい案が出てくると、ワクワク感が出てくるのかな、と思いながら聞かせていただきました。内容を反対することはないので、方向性もすべて教育振興基本計画に書いてありました。開かれた学校の実現を目指すことは、ずっと意識してやっていることなので、なぜここで改めて出てくるのか。言い過ぎかもしれませんが、できていないからこのように書かれているのかと思いました。</p> <p>ワクワクするような話、どうもありがとうございました。</p> <p>大事なことは、この方向性があって具体的に何をするかということでありま す。教育振興基本計画に書いてあるので、だから何をするのか、具体的にどう していくのか、大事な意見だと思います。</p> <p>いただいた意見も入れていきながら進めていくことで、この方向性でよろし いですか。</p>
-------------	--

A 委員	<p>私も南地区の立ち上げからコミュニティ・スクールをやらせていただいております。先ほどB委員お話があったとおり、コミュニティ・スクールに力があると思ったことが、西地区で漢検を始めたことです。実はこれ、南地区も始めていて、菁莪も今度始めることになりました。篠津でもやるようになりました。こういう情報は、実は個人同士の会話から進んでいます。要するに学校をつなぐ横串がない。隣が何をやっているか分からない学校もあります。B委員が言われたとおり、コミュニティ・スクールと言われて、何をやって良いか分からず、手探りでやっている状態です。隣が良いことをやっていればやりますし、学校間で何か話ができる機会があれば良いと思います。南地区はおかげさまで学区が一緒に小中連携がやりやすかったのですが、篠津中学校区は篠津小、白岡東小、篠津中があって、複数のコミュニティ・スクールに出なければいけないとか、難しい部分があると思います。ですので、その辺を考えていただきたいと思います。</p> <p>私がコミュニティ・スクールで言われたことは、「地域が学校のことをやるのは分かるが、子どもたちは地域のために何をしてくれるのか」「学校は何をしてくれるのか」との話がありました。それはそうだと思い、南地区ではボランティアをやることになって、地域のお祭りに小中の子どもたちを積極的に参加させて、手帳を作って記録し、卒業するときに渡すことをしています。今年から始めましたが、中学生では延べ 100 名が地域のお祭りにボランティアとして参加しました。</p> <p>今後の方向性のところはこれでよいと思いますが、地域が子どもも全部教育しなさいという文章になっています。最終的には子どもたちを地域に還元することが学校の責務だと思っていますから、「教育を通して地域に還元させます」という視点も入れておいた方がよいと思います。</p>
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>学校間の連絡について、ある市町村はコミュニティ・スクール連絡協議会を行っているところがあります。地域の方が集まってそれぞれ何をやっている</p>

事務局	<p>かつて連絡協議会をとおして、どの地区でも同じような取組ができたらと、そういう提案をしたいと思います。</p> <p>もう一つ、子どもを地域に還元することについては、「子どもが成長して地域の担い手になる。」そういう言葉があれば良いという提案だと思っています。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。そのような表現も追加できればと思います。検討させていただきます。</p>
濱本会長	<p>それでは、この方向性をお願いします。</p> <p>次は部活動です。部活動の方向性のご意見お聞かせください。</p>
J委員	<p>このことは、保護者から一番相談を受けることなので、今回はいろいろなこととお伺いしたいと思います。</p> <p>まずなぜ白岡市はこれを先行して始めたのでしょうか。これについて多くの保護者が疑問に思っています。なぜ率先して始めたのか知りたいです。</p>
事務局	<p>部活動の地域移行については、まず生徒の要望に応えたいということです。例を出して大変申し訳ないですが、菁莪中の運動部は、バスケット、テニス、卓球しかありません。野球をやりたい生徒は、どうするのかとなったときに、例えば、南中の近くに住んでいる生徒であれば、野球をやりたいので、南中に行かせて欲しいと申請すれば、許可されます。ただ、南中に行けない生徒はどうするのかとなったときに、これは部活動を広域的にやらなければいけないのではないかとなりました。しかし、資料にありますが、平日は時間の関係で難しいところがあり、せめて土日休日だけでも、野球、サッカーをやりたい生徒をどうするかが始まりになっています。</p> <p>もう一つは、教員がしっかり教えられるかどうかという話です。教員の数が多ければ指導できる種目も多くなりますので専門的に教えられますが、全く教えたことがない教員が顧問になっている例があらゆる地域でたくさんあります。そのときの教員の負担が大きいということです。教員も部活をするためになった人は多くいません。部活も重要ですが、生徒の希望を叶えるということ</p>

J 委員	<p>と、教員にしっかりと子どもたちに教育をしてほしい、この2つが大きな理由になります。</p> <p>菁莪中は特にその理由が強く、市としては最初に菁莪中と南中で始めて、これを広げるべきだと、篠津中と白岡中にも広げていきました。現在も広げている最中で、また今年度から来年度にかけて、もう一つ上の段階で、合同部活をやったり、新たな部活を作ったり、そういった形になります。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>そういうことなのかとは少し思っていました。</p> <p>これから先を考えたときに保護者の方から委託先団体への不信感が多く、考えていただきたいということと、先ほどの指導者の先生たちの話でもそうですが、サッカーでも野球でもバスケでも各学校の意見として「合同練習はしたくない」「練習試合ならよいが、なぜ手の内を見せなければいけないのか」と疑問になっています。他校から来た先生が生徒たちを指導してくれていますが、自分たちの生徒を他の先生やコーチにみてもらうのも、ということもあり、なかなかうまくいっていないのではないかと思います。そのためそんなに急いでやらなくてもよいという感じがします。他の市の例をみてから、進めていく感じでも良いのではないかと、保護者からの意見が多くなっています。</p>
事務局	<p>まず2点目については、学校の規模によってそれぞれ考えなければいけないと思っています。4つの中学校をすべて同じ形にするのが良いのかを非常に悩んでいます。今のご意見も聞いておりますので、しっかりと考えていきたいと思っています。</p> <p>次に1点目の委託先の関係についても、賛否がございまして、いろいろなご意見をいただいているところです。今の団体がよいという方もいるし、少し問題があるのではないかという方もいます。ちょうど今、令和8年度から委託先を新たに選定し直すという段階に入っています。そこは、総合的に考えて、その業者とのやり取りをさせていただければ、と考えております。</p>

<p>濱本会長</p>	<p>業者について不信感があるとのことでした。先ほどA委員、B委員、G委員がおっしゃっていましたとおり、学校だけでなく地域も育てなければいけません。ある意味、地域の子どもたちをどのようにしていくのか。学校が変わっても、変わらずに育てよう、ということが課題だと思います。</p> <p>方向性として、「持続可能な運営のあり方を検討していく」とのことです。いろいろな市町村のよいところを白岡に取り組んでいくとのことです。また、埼玉県全県でJ委員のご意見は課題になっています。</p> <p>私が篠津でお世話になったときは、6クラスから8クラスありましたから、先生方も多くいて、部活動もいろいろあり、積極的にやっていました。ですが今は規模が縮小して生徒も先生も減っています。そうすると野球のチームを組めない学校もあります。その中でいろいろ模索をしながら良い形を作ろうと頑張っているところです。よい例をみつけてもらってご提案してもらえればと思います。</p> <p>子どもは毎日頑張っていますから、そういう子どもたちが嫌な思いをしないことが大事だと思います。是非、良い事例を提供してください。</p>
<p>M委員</p>	<p>部活動の問題について、非常に悩ましい問題だと思っています。J委員がおっしゃった保護者の目線、生徒の目線を、教育界は置き去りにしてしまっているのではないかという論調を、先日みかけました。子どもの意見をもっと聞いた上で地域移行を進めるべきではなかったのかということことです。</p> <p>私自身管理側に立つ人間なので、教職員の残業問題、運動部活動で万一の事故などあった場合には裁判で負けます。</p> <p>学校管理者と教員に管理監督責任があったということで、損害賠償になると非常に重い責任が付きまとうことは最近はっきりしてきまして、学校長も無理に命令はできないのです。</p> <p>部活の顧問や教員の成り手の少なさの一因に、長時間労働や部活動経験がないのに指導しなくてはならないことがある、とされる面もあって、管理側からすると、この時代の流れとして合同化や、縮小化はやむを得ないと思っています。私自身も部活で育ってきた人間で、部活で指導をするのは嫌いではなかったなので、今のJ委員の視点は大事だと思います。今後の白岡市の部活のあり方</p>

	<p>について、いろいろな方の意見を聞いて、丁寧に進めていくべきだと思っています。</p>
濱本会長	<p>ぜひ、今後に活かしていただきたいと思います。</p> <p>もう一つ、運動部の活動だけではなく、文化部の活動もあります。そちらも大事にしてあげてほしいと思っています。</p>
L 委員	<p>文化部も大会、コンクールのあり方についてという欄で記載がありますが、基本的に地域クラブでという話です。文化部は、特に合唱部や吹奏楽部は先生が指揮者で出るはずで。そうなってくると、地域クラブは、成り立たないのではないかと思います。言っていることとやろうとしていることの矛盾を感じています。私は文化部だったので気になりました。</p>
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>吹奏楽部の発表は、学校単位で出ていると思います。そのため、指揮者が先生になっていますが、そこについて今後変わるのかもしれませんが。地域の方から指揮者が出るなど、ぜひ探ってみてください。</p> <p>情報提供だけでもしていただけるとよいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
A 委員	<p>私も地域部活のときに、PTAをやっていて、教育委員会といろいろお話しさせていただきました。まずは先生たちの働きすぎというところからスタートして、先生は無償でやっている、土日もしでやっているところからこの話が出てきています。私も一時期、県の地域部活動の委員会に出たりしましたが、うまくいっているところはほとんどないようです。</p> <p>白岡市は、先見的に始めて、次の世代に部活を残していくスタイルだと思っています。本当に難しい話で、戦後の遺産のような部活の形でやっているの、変えなければいけない時期だということだと思います。</p>

濱本会長	<p>これは白岡市だけではないので、よい意味で、保護者の方が教育委員会にどんどん意見を言っていて、ディスカッションして、一個ずつ取り組んでいった方がよいのでは、と思います。</p> <p>時間の関係もあり申し訳ございません。地域連携についての方向性はこれでよろしいですか。</p>
委員一同	異議なし
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、そのような方向性で決定させていただきます。</p> <p>続きまして、議題4「環境の充実について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	(4) 環境の充実について説明
濱本会長	<p>環境の充実につきまして、学校施設についての方向性は、これでよろしいですか。具体的なことはまた次回でいろいろご意見をいただければと思います。子どもたちの安心安全のことを考えれば直すところは直さないといけなから、そのときに本日いただいた意見等も踏まえて改修なりしていただければと思います。この方向性でいきたいと思います。</p> <p>次に他の公共施設の複合化・共有化についてです。これは教育委員会だけでは難しいと思います。首長部局と連携しながら進めることもありますけれども、皆様のご意見もぜひ参考にさせていただければと思います。そういう中でこの方向性はどうか。</p>
G委員	<p>7ページについて、今後の方向性で老朽化の対策、大規模改修など築年に応じたとありますが、あと何年ぐらいもつのでしょうか。極端な話、壊して合体して作るということもこの中には含まれているという理解でよいのでしょうか。</p>

事務局	現段階ではそのような選択肢も入っております。
濱本会長	<p>そのときに建て直すにしても皆さんのご意見を反映できるようなことも考えたいと思います。次回に意見を出していただければと思います。</p> <p>10 ページはどうでしょうか。複合型にしても、学校を地域の学び、交流の拠点としてできるような形で進めていただきたいということです。</p>
M委員	基本的な質問ですが、放課後子ども教室で毎日常設されている事業が現在ないというのは、利用する人が少ないからですか。それとも担い手側の都合で毎日常設するほどの人がいないということでしょうか。
事務局	1 週間に 1 回やっている状況です。人手不足という課題があります。
濱本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>学童保育と放課後子ども教室について、同じ時間帯、同じ日にやると、いろいろとバッティングしてしまうことも今後の課題だと思います。10 ページの方向性はよいでしょうか。それでは、この方向性でいきましょう。</p> <p>次にプールについて、ご意見あれば、お願いいたします。</p>
E委員	<p>表を見させていただいて、プールの経年変化にこれだけ違いがあるのかと思いました。</p> <p>学校間のプールの共用化ですが、一つ心配があります。今年または去年のような猛暑の中で、県の規定により、どうしてもできない日というのがございます。本校でもその規定に基づいてプールを実施していましたが、そういった気温の上昇等で、共用化したときに子どもたちが入れる回数が少なくなってしまうのではないかと、というところが頭をよぎりました。</p>
J委員	私の子は市外の幼稚園だったのですが、その幼稚園に室内プールがあってそのままスイミングスクールができるプールになっています。

	<p>私の子どもの周りはスイミングスクールに通っている子が多くいます。それを見ると、学校で水泳の授業をするのは最低限の日数で良いのではないかと思います。泳ぎを教えたくてプールをさせるならあった方が良くと思います。遊びや交流のような感じであれば最低限の回数で良いから、わざわざ他の小学校に行ってプールを借りるのでなくて、一律でみんな週 1 回でも B & G に行くほうが効率はよいと思いました。</p>
<p>濱本会長</p>	<p>どれだけ子どもたちがスイミングスクールに行っているのか、あるいは学習指導要領の水泳の狙いなど次の回にお示しできたらお願いします。</p> <p>それではプールの方向性についていかがでしょうか。この方向性でいきましょう。</p> <p>次に給食についてです。私は給食が大好きで、皆さんも好きだと思います。学校再編も踏まえ、給食方式のあり方について今後も検討していく、これについて方向性はこれでよろしいですか。ただし、こういったことも検討してほしいということは当然あると思います。それではこの方向性ということで、次回またご意見をいただいて、こんな方向で進めてほしいということがあれば、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>時間をオーバーしてしまいました。次回、多くのご意見いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>安原副会長には、次回に発言してもらいたいと思います。長時間になってしまい申し訳ございません。それでは事務局に返したいと思います。どうもありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、本日の議題は、すべて終了いたしました。</p> <p>委員の皆様方のご協力に感謝申し上げます。</p> <p>それでは、進行を事務局にお返しします。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 その他</p> <p>～事務局から、「次回審議会の日時について」、「シンポジウムについて」、「報酬及び費用弁償の支払いについて」を説明～</p>

事務局	ただ今の説明について、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。
委員一同	意見、質問等なし
事務局	委員の皆様から、全体を通して何かございますでしょうか。
委員一同	意見、質問等なし
事務局	<p>5 閉 会</p> <p>本日は、長時間にわたり、熱心にご審議いただき、ありがとうございました。これをもちまして、第5回白岡市立学校適正規模・適正配置審議会を閉会させていただきます。</p> <p>今後とも、よろしくお願いいたします。</p>